

第15回 ふじた看図アプローチ研究会まとめ

日時：2024年11月20日（水）17:45~19:45

場所：藤田医科大学3号館6-643

参加者：ふじかんメンバー（5人）

Zoomでの参加：文京学院大学（2人）、長崎県立看護学校（7人）

ファシリテーター：東 本美

タイムキーパー：加藤（睦）



勉強会は二部構成で実施した。

第一部では、テキスト『協同学習の新しいかたち—看図作文レポートリー—』第1章「看図作文の可能性」をLTD話し合い学習法を用いて読み解いた。3校合同でオンライン新規参加者多い開催であったため、自己紹介をしてから、ふじかんメンバーと文教大学の先生、長崎県立看護学校のメンバーの2チームに分かれてLTD話し合い法に入った。第二部では、リビングに居る家族の絵図を用いて話し合った。

1. LTDの内容

- ・言葉の理解では、看図作文のルーツが中国にあることや、「中国式」と「鹿内式」の違いに注目した。「看図作文」「白塔」「明快」「博爾」「発問で広げる可能性」と多岐に渡って言葉の理解に努めた。
- ・主張の理解では、看図作文の可能性について、絵図からキーワードを導き出すアプローチが重要であると考察した。1990年代の中国における看図作文に鹿内先生が教育的可能性を見出した。そこから鹿内式へ深化することで学習者の意欲を向上、創造性を育む方法として有効であると理解が深まった。一方、中国出身者からは「中国での看図作文には限界を感じることもあった」との声が寄せられ、それを踏まえ、「見ることを大切にする」「協同学習を引き出す」「創造性が向上」といった鹿内式の独自性の理解が深まった。
- ・話題の理解では、子どもの楽しい絵図や共通の題材を用いることで、安心して看図作文に取り組める。ビジュアルテキストをみて、発問の回答を思考することで、創造性が高まり、仲間の意見を聴くことで協同学習としての効果が発揮される。看図作文は楽しく知的能力が高まり、モチベーションも上がる方法でありクリエイティブであると話題を共有した。
- ・知識との関連づけでは、鹿内式では、個人思考を行い、仲間と協力し合い、わかることの楽しさを体験できる。教材としての写真を撮るとき、事前学習をした上で写真を撮っている。作文というと題材を与えられて苦しんで書くものと思っていた。絵図があると悩むことなく取り組める点や見ることの重要性がより理解できた。
- ・自己との関連づけでは、視覚的な関連づけとして、術後1日目のイメージがつかない場合に、文字だけでなくビジュアルテキストを見ることでイメージでき、創造性が発揮できた。一枚の絵から皆で学び合うことで術後のイメージができたことから想像力を引き出す体験ができた。看図作文や協同学習など、話し合いを通じて学びの内容を共有する意義が深まった。

第一部のまとめとして

自由な発想を引き出すための発問の工夫や、学びを通じて教員自身も成長できる点が議論された。参加者からは「楽しく学習者の体験ができた」「発問の重要性が理解できた」「想像力の発揮が体験でき、やる気の扉をあけることができた」などの感想が寄せられた。

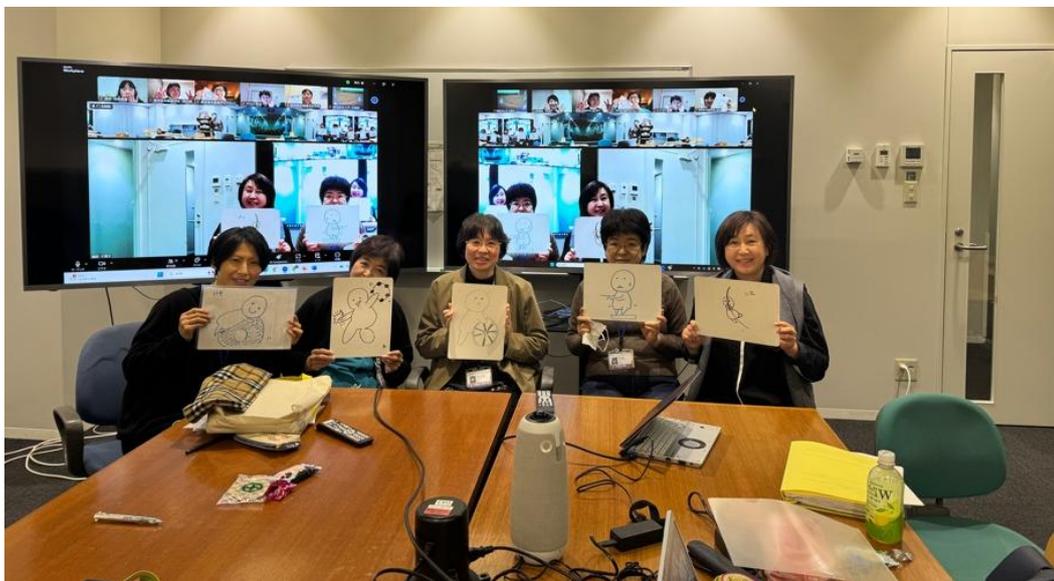
2. 看図アプローチ実践

リビングに居る家族の絵図を用いて、看図アプローチを実践した。

- ・変換では、ギター、犬、子ども、クッション、カーテン、植木、リボン、窓、時計、マット、タペストリー、イヤリング、テーブル、ソファ、犬の首輪、積み木など多数あがった。
- ・要素関連づけでは、犬が寝ている、時計が2時4分をさしている、ギターがスタンドに置かれている、お父さんが本を読んでいる、赤ちゃんが積み木で遊んでいる、きれいに部屋が片付いている、4人が別々なことをしているなど多数あがった。
- ・外挿では、「この後、この赤ちゃんに何が起こるでしょう」をテーマにそれぞれの意見を共有した。「姉が犬の尾を踏んでしまい、犬が驚いて赤ちゃんの手をかんでしまう」「お天気になってきたから3時にカフェに4人で出かける」「お母さんがトイレに行ったため、赤ちゃんが泣き出してしまい、お父さんとお姉ちゃんが困ってしまう」「赤ちゃんがつかまり立ちから独り立ちをしようとしていたが誰もその場面をみるができなかった」など様々な発想で絵図を読み解きました。

3. きゅうちゃんシートを活用した「今の気持ち」の表現

メンバーが増え、さらに多くの考えを共有できることを期待します。



文責：東本美・織田千賀子

次回：12月20日（金）17：45～
第2章「看図作文授業の工夫」
ファシリテーター：近藤先生

